



もう限界… 老老介護

Kさん 74歳は、難病になり 84歳の夫と二人暮らし。
夫はほぼ寝たきりの Kさんを介護をして 7年になる。胃ろう造設した
Kさんの食事は、夫が胃ろうから栄養を入れたり、痰がうまく
だせないため吸引をしたり、おむつ交換を毎日している。

『ケアホーム希望』を利用して約3年になるが、
その間に 夫自身も持病が悪化し入院することもあった。
更には団地の建て替えのため引っ越し等もあり、くたくたな
状況で「通い」と「訪問看護」サービスの他に「泊まり」のサービスを利用して Kさんの介護
をしてきたが、とうとう年末には腰痛で動けなくなり、介護を受ける側となってしまった。

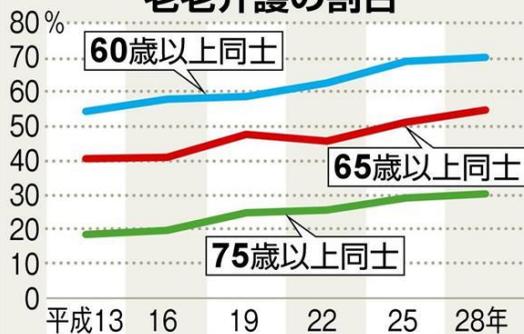
夫からは「どこか施設にでも入所させたい」と、愚痴も言うようになるが、いざ施設入所の
話を進めると「やっぱり可哀想だから入所は断る」と言う。

息子が2人いるが、それぞれ所帯を持ち、自分たちの生活もあることから 経済的には十分な
協力が得られないのが現状である。夫自身も息子たちの世話になることは望んでいない。

Kさんの『ケアホーム希望』での利用は 夫の体調に応じ、臨機応変に「泊まり」と「通い」
「訪問看護」サービスを組み合わせて対応している。



老老介護の割合



Mさん 84歳は、86歳の夫と二人暮らし。
癌と診断され薬で痛みのコントロールをしている。
要介護5 の寝たきりの Mさんを在宅で介護をして
10年になる。

夫は Mさんの食事の世話やおむつ交換等を日課の
ように毎日1人でやっている。

時々「早く天国に逝ってもらいたい…」と、愚痴を
こぼすことも多くなった。

1日に少量の食事と 200mlの水分しか摂らないため
体は みるみる小さくなり、床ずれもできて 何度も

急変することがあるが、Mさんは「夫のことが心配で死ねない」と言う。

精神的にも2人は支え合いながら自宅で生活している。

昨年11月に夫が風邪と腰痛、介護疲れがピークに達し、体調を崩し『ケアホーム希望』の「
泊まり」のサービスを始めて利用することになった。自宅で過ごしている時は毎日「訪問看護」
を利用していたため、顔なじみの看護師がいるところは安心して利用することができた。

自分達に何かあったら臨機応変に対応してくれる『ケアホーム希望』のサービスは安心感が
あるが、いつまで続くかわからない介護は経済的にも肉体的にも介護する夫は、どこまで持ち
こたえることができるのだろうか？



俺が鬼になるの？



わたしもバレンタインチョコもらっちゃった



バレンタインチョコ作るの何年ぶりかしら



節分は豆まきやったよ



歌声喫茶 開店で〜す!



みんなお上手ねえ〜

私たち「ケアホーム希望」で楽しい時間を過ごしています!



泊まりの日はビールを飲ませてもらってるよ

パセリづくりや花壇の手入れは楽しいわね



のぞみ園芸



のぞみ 希望 日誌

ケアホーム希望の調理師として昨年9月より勤務して5ヶ月になります。今までは、施設で栄養士が考えたメニューを決められた材料で作るのみでした。ここ ケアホーム希望では、毎日のメニューを自分で考え、材料を自分の目で見て買って作っています。

飲み込みの悪い利用者さんには、ミキサー食やキザミ食で対応したり、利用者



今日一緒にだんごを作ります

一人一人の好みを理解して作るのは大変でしたが、利用者さんの顔が見えるオープンキッチンで作っていると、「いい臭いがするわね」や「美味しそうね」と、ダイレクトな声はプレッシャーもありますが、一緒に食事をしながら「お昼ご飯を楽しみにきているのよ」等と言われると、本当に嬉しく思います。

今ではおやつ作り等、利用者さんと一緒に楽しんでいます。

